



『童観音菩薩倚座像』(直彫りによる創作仏像)2013年制作

## 長岡 和慶 (ながおかわけい)

長岡和慶(ながおかわけい)昭和30年～(1955～)彫刻家。北海道滝川市生まれ。現在、愛知県岡崎市在住。22歳の時、彫刻家の兄・熙山の勧めで石造彫刻の世界に入る。以来650余体の石仏、石像を世に送る。代表作に、大英博物館(イギリス)の須弥山童子六地藏、ライプチヒ民族博物館(ドイツ)の内裏雛、ハワイ浄土宗別院の救世仏像、東大寺の十一面観音、比叡山延暦寺の伝教大師最澄像、永平寺の道元禅師像、三井寺の大日如来などがある。1990年『長岡兄弟仏像彫刻写真集』出版。2000年巨利総本山三井寺より、石では日本国内外初となる大仏師の称号を兄と共に受ける。2001年『石仏を彫る』出版、2002年『永遠の美空ひばり像』を塩屋埼灯台下建立。2008年詩人谷川俊太郎詩碑を三ヶ根山頂に建立。2010年京都三千院より大仏師の称号を兄弟共に授与。2011年『長岡和慶の世界』を出版。細部にまで妥協を許さない独自の作風は広く知られている。日本石仏協会理事。